

● はじめに

この度は、Suspicious USB Shutoutをご利用いただき、誠にありがとうございます。  
管理されていないUSBメモリーの使用を防ぐためにSuspicious USB Shutoutを開発致しました。  
本システムは使用を許可するUSBメモリー等のリムーバブルメモリーのシリアル番号をサーバーに登録しておき、クライアントにその登録リストを配布し、クライアント側ではその登録リストに登録されているUSBメモリーのための使用が可能となるシステムです。  
情報漏洩防止のため、物理的にUSBインターフェイスを取り去ったPCを使用する場合がありますがその場合、以下のような問題が生じます。

- 特注PCとなるのでコストがかさむ。
- メモリー以外のUSBインターフェイスのプリンタ、或いは無線LANアダプタの接続や、携帯電話を接続して出張先からのダイヤルアップ接続も不可能となる。
- 障害発生時のメモリダンプやログの収集が困難。

本ソフトウェアはそれらの問題を解決します。

USBメモリーの使用を完全に禁止する場合、サーバー上の登録リストを空にしておくことにより可能であり、登録したUSBメモリーのみは使用を許可するような指定も可能です。また、タイマーによって定期的に、或いはリクエストによってクライアント側の登録リストが更新されますので、登録したUSBメモリーを管理者が貸し出し、そのUSBメモリーを使用する必要がなくなった時点でサーバー上の登録リストから取り除くことにより、USBメモリーの使用を禁止するような運用も可能です。いずれの場合も、その他のUSBインターフェイスの機器は接続できます。

また、Suspicious USB Shutoutのクライアントプログラムの停止やアンインストール情報をサーバーに吸い上げ、表示、印刷する機能も有しています。

<Readme内目次>

● 留意点	2
● 動作環境	3
■ サーバー	3
■ コンソール	3
■ クライアント	3
■ ネットワーク	3
● 梱包物一覧	4
● インストール	6
■ .NET Frameworkのインストール	6
■ サーバー	6
■ コンソールプログラム	7
■ クライアント	8
● アンインストール	9
■ サーバー	9
■ コンソールプログラム	9
■ クライアント	9
■ HeloWorld	9
● 試用制限	10
● その他	10
● 変更履歴	10
● 連絡先	11
● (特記)	11

● 留意点

- Suspicious USB ShutoutのクライアントプログラムはWindowsにログインしていない状態で稼動いたしません。
- Suspicious USB Shutoutのクライアントプログラムはログイン後、自動的に起動されます。
- USBメモリーの管理方式は以下の通りです。
  - ◆ シリアル番号が管理リストに登録されている番号と一致したものは使用を許可する。
  - ◆ シリアル番号とユーザ名（ログイン名）が管理リストに登録されているものと一致したUSBメモリーはそのユーザーがログインしている間、マシンの違いを問わず使用を許可する。  
※同一USBメモリーに対して複数回指定可能ですので、複数ユーザーを指定できます。
  - ◆ シリアル番号とマシン名が管理リストに登録されているものと一致したUSBメモリーはそのマシンにおいてユーザーの違いを問わず使用を許可する。  
※同一USBメモリーに対して複数回指定可能ですので、複数マシンを指定できます。
  - ◆ シリアル番号、ユーザ名（ログイン名）、及びマシン名が管理リストに登録されているものと一致したUSBメモリーは指定されているユーザーが指定されているマシンにログインしている間のみ使用を許可する。  
※同一USBメモリーに対して複数回指定可能ですので、複数ユーザと複数マシンの組み合わせを指定できます。
- クライアントがサーバーにUSB登録リストを要求するタイミングは以下の通りです。
  - ◆ クライアントの初回起動時等、登録リストがクライアントに存在しない場合にクライアントが起動されたとき。
  - ◆ クライアントからのユーザーの手動操作によるリクエスト時。
  - ◆ クライアントに初期設定されたタイマーによるリクエスト時。
- サーバーへ吸い上げる情報
  - ◆ Suspicious USB Shutoutの終了やUninstall情報等

- 動作環境

- サーバー

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
    - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- コンソール

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
    - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- クライアント

- ◆ Windows 2000/Windows XP/Windows 7または完全互換性のある上位バージョン
    - ◆ 本ソフトウェアはMicrosoft .NET Framework 2.0以上が必要です。インストールするマシンにMicrosoft .NET Frameworkがインストールされていない場合は本ソフトウェアをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておいて下さい。

- ネットワーク

- ◆ ネットワークを経由してサーバーとクライアントが交信可能な環境にあること。  
(pingコマンド等で確認して下さい)
    - ◆ 指定したポートが本システムのみで使用可能であり、そのポートを介してデータの送受信が可能であること。

- 梱包物一覧

- readme.pdf  
本ファイル

- ServerComponent  
サーバーのインストールコンポーネント

クライアントからのUSBメモリー管理リストのリクエストに対する送信や、Suspicious USB Shutoutの終了やUninstall情報等のクライアントから送信されてきた情報のデータベースへの格納を行います。

また、データベースに格納された情報の表示やUSB管理リストの編集を行うコンソールプログラムも含まれています。

本システムでは1つのライセンスで1台のPCへのみサーバープログラムをインストールすることが出来ます。

- ◆ susServerSetup.exe  
サーバー用セットアッププログラム  
コンソールプログラムもインストールされます。

- ConsoleComponent  
コンソールプログラムのインストールコンポーネント

データベースに格納された情報の表示やUSB管理リストの編集を行います。

本システムでは1つのライセンスで複数のPCへコンソールプログラムをインストールすることが出来ます。

サーバープログラムをインストールした時点でコンソールプログラムはサーバーにインストールされますがサーバー以外のPCにもコンソールプログラムをインストールする場合、こちらをご使用下さい。

- ◆ susConsoleSetup.exe  
コンソールプログラムセットアッププログラム

- ClientComponent  
クライアントプログラムのインストールコンポーネント

USBメモリーの使用を管理リストに従ってコントロールします。

本システムでは1つのライセンスで複数のPCにクライアントプログラムをインストールすることが出来ます。

- ◆ susClientSetup.exe  
クライアント用セットアッププログラム
- ◆ susClientInit.ini  
クライアント用初期値設定ファイル

- HelloWorld  
Microsoft .NET Frameworkをインストールするためのダミープログラムのインストールコンポーネント

- ◆ setup.exe  
HelloWorldのセットアッププログラム
- ◆ HelloWorldSetup.msi  
HelloWorldのセットアップデータ

Windows 7では既にMicrosoft .NET Frameworkはインストールされていますので本コンポーネントは通常は必要ありません。

- susRetrieverの常駐登録.pdf  
susRetrieverの常駐への登録、常駐からの削除に関する記述
- INIファイルパラメータ設定.pdf  
クライアント用初期値設定に関する記述
- getinfodisk1223.zip  
弊社作成ソフトウェア「GetInfoforDisk」です。USBメモリーのシリアル番号を取得する方法はいろいろありますが、本ソフトウェアでも取得することが出来ます。圧縮ファイルを解凍してお使いください。  
尚、シリアル番号は4バイト（=16進で8桁）の番号ですが、上位が「0」（例：0AB12CD3）の場合本ソフトウェアでシリアル番号を取得すると、シリアル番号の先頭の「0」が表示されず「AB12CD3」と表示されます。このような場合、コンソールプログラムにてUSB管理リストに登録する際は先頭に半角で「0」を付加し、8桁で登録して下さい。

## ● インストール

### ■ .NET Frameworkのインストール

Suspicious USB Shutoutが稼動するためにはMicrosoft .NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。Microsoft .NET Frameworkがインストールされているかどうかを確認するためには「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」で表示される、《現在インストールされているプログラム》の一覧で確認することが出来ます。

Microsoft .NET Frameworkがインストールされていない場合、Suspicious USB Shutoutの各コンポーネントをインストールする前にMicrosoft .NET Frameworkをインストールする必要があります。インストールは以下の方法で行えます。

尚、Windows 7では既にMicrosoft .NET Frameworkはインストールされていますので本処理は通常は必要ありません。

1. MicrosoftダウンロードセンターよりMicrosoft .NET Framework 2.0とMicrosoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Packをダウンロード、又は他の方法で入手し、インストールする。

または

2. インターネットからMicrosoft .NET Frameworkをダウンロード可能なネットワーク環境で、梱包物に含まれているHelloWorldのセットアップを実行する。

HelloWorldのインストーラはMicrosoftのインストーラを使用しています。Microsoftのインストーラはプログラムのインストールに先立って、Microsoft .NET Frameworkをダウンロードしてインストールする必要がある場合、ダウンロードセンターへ接続します。そこからダウンロードが出来ますのでダウンロードし、Microsoft .NET Frameworkをインストールして下さい。その場合は、HelloWorldはインストールされません。HelloWorldは「Hello World!」と書かれた画面を表示するだけのプログラムなのではインストールされなくても問題ありませんが、HelloWorldのインストールが必要な方は再度HelloWorldのセットアップを実行して下さい。

Microsoft .NET Frameworkのインストールが完了した時点でシステムは再起動される場合があります。

Suspicious USB Shutoutの各プログラムはインストール時に初期設定を行う必要があります。そのため、インストールの途中でシステムの再起動が行われると正しくセットアップが完了しない恐れがあるため、Microsoftのインストーラは使用しておらず、Microsoft .NET Frameworkを自動的にインストールする手法はとっていません。

### ■ サーバー

1. ServerComponent内のsusServerSetup.exeを実行して下さい。
2. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
3. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
4. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
5. コンポーネントの選択画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
6. プログラムグループの指定画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
7. 追加タスクの選択画面が表示されますのでショートカットの作成を指定して（通常はそのままです）《次へ》をクリックして下さい。
8. インストール準備完了の画面が表示されますので《インストール》をクリックして下さい。
9. サーバーセットアップのパラメータ設定画面が表示されますのでポート番号を指定して《設定》をクリックして下さい。インストールが完了します。
10. バージョンアップ等の再インストールで再インストール以前に収集した情報を引き継ぐ場合、他のドライブ、またはディレクトリにコピーした"susDatabase.sus"を下記ディレクトリ

りに上書きコピーして下さい。

- Windows 2000/XPの場合  
All UsersプロファイルのアプリケーションデータがCドライブにある場合  
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data  
SuspectiousUSBSHutout
- Windows 7の場合  
C:\ProgramData\SuspectiousUSBSHutout

その際、上書きコピーした"susDatabase.sus"を右クリックして、プロパティを開きセキュリティタブをクリックして下さい。ユーザ権限や他のコンピュータからコンソールプログラムを使用してデータベースの内容を表示する場合、"Everyone"のアクセス許可が「フルコントロール」になっていないとリダイレクションされたデータベースにアクセスし、正しい情報を表示できない場合がありますのでそのアクセス許可を「フルコントロール」にして下さい。

方法は「グループ名またはユーザ名」の追加ボタンをクリックし、「選択するオブジェクト名」に"Everyone"を入力し、「OKボタン」をクリックします。

その後、Everyoneのアクセス許可の「フルコントロール」のチェックボックスを「許可」にし、「OKボタン」をクリックします。

新規インストール、再インストールでも古いデータを使用せず新規に情報収集を行う等、それ以外の場合は本項10の作業は必要ありません。

11. susRetrieverを常駐プログラムとしてタスクスケジューラに登録し、システムを再起動して下さい。  
登録方法は「susRetrieverの常駐登録.pdf」を参照して下さい。
12. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにサーバーコンポーネントをインストールした場合、項番9のパラメータ設定でエラーとなりますがそのまま処理をインストールを完了させて下さい。Microsoft .NET Frameworkを後からインストールし、「スタート」ボタン→「全てのプログラム」→「susServer」→「ポート番号再設定」で《susServerパラメータ再設定》を起動し、ポート番号を設定し、項番11によってタスクスケジューラに登録していない場合は登録し、システムを再起動して下さい。

## ■ コンソールプログラム

サーバープログラムをインストールした時点でコンソールプログラムはサーバーにインストールされますがサーバー以外のPCにもコンソールプログラムをインストールする場合、以下の手順で行います。

1. ConsoleComponent内のsusConsoleSetup.exeを実行して下さい。
2. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
3. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
4. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
5. コンポーネントの選択画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
6. プログラムグループの指定画面が表示されますのでそのまま《次へ》をクリックして下さい。
7. 追加タスクの選択画面が表示されますのでショートカットの作成を指定して（通常はそのままです）《次へ》をクリックして下さい。
8. インストール準備完了の画面が表示されますので《インストール》をクリックして下さい。
9. セットアップウィザードの完了画面が表示されますので《完了》をクリックして下さい。インストールが完了します。
10. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにコンソールプログラムをインストールした場合、コンソールプログラムの実行時にエラーとなりますのでMicrosoft .NET Frameworkを後からインストールして下さい。

## ■ クライアント

1. ClientComponent内のsusClientSetup.exeを使用して下さい。
2. susClientInit.iniを変更して以下の初期値を事前に設定出来ます。
  - サーバーのIPアドレス(susIPAddress)
  - サーバーのポート番号(susPortNo)
  - サーバーからUSBリストを受信するインターバル(RequestInterval)
  - フロッピーディスクを監視対象とするかどうかを指定(ADDCount、ADDn)これらの値はメモ帳などで変更出来ます。  
これらの初期値を使用する環境に合わせて事前に設定し、クライアントインストールセットを各ユーザに配布する、或いはユーザ全員がアクセス出来るネットワーク上の共通フォルダに格納し、それを使用してインストールすることにより、クライアントインストール時にこれらの値を変更する必要がなくデフォルトのままインストールすることができ、多数のクライアントへのインストール作業の効率が向上します。  
詳細は「INIファイルパラメータ設定.pdf」を参照して下さい
3. susClientSetup.exeを実行して下さい。
4. セットアップウィザードが表示されるので《次へ》をクリックして下さい。
5. 使用許諾が表示されるので同意される場合《次へ》をクリックして下さい。同意されない場合は《キャンセル》をクリックしてインストールを中止して下さい。
6. インストールディレクトリを指定して《次へ》をクリックして下さい。
7. 《次へ》をクリックして下さい。
8. クライアントインストールの設定内容が表示されるので確認して《次へ》をクリックして下さい。
9. セットアップが開始されます。
10. 初期設定フォームが表示されるので正しい値を入力して下さい。
  - susRetriever接続モード：サーバーとの接続モードを選択します。
    - Online・・・サーバーと接続します。
    - Offline・・・サーバーに接続せずに各種データをテンポラリファイルに保持し、保持したデータはOnlineに変わったときにサーバーへ送ります。
  - susRetriever IP Address又は ホスト名：  
susserverのIP Address 又は ホスト名を指定して下さい。  
(Pingコマンドでエラーにならない情報を指定して下さい。)
  - ポート番号：ポート番号を指定して下さい。
11. インストーラを終了し、再起動してsusWatcherを起動して下さい。
12. Microsoft .NET Frameworkをインストールせずにクライアントコンポーネントをインストールした場合、項番10のパラメータ設定でエラーとなりますがそのまま処理をインストールを完了させて下さい。Microsoft .NET Frameworkを後からインストールし、「スタート」ボタン→「全てのプログラム」→「susClient」→「susClientパラメータ設定」で《smClientパラメータ設定》を起動し、各パラメータを設定し、システムを再起動して下さい。尚、この場合、インストールに使用したクライアントコンポーネントのINIファイルをその場所から読み込みますので、本作業が完了するまで削除、移動は行わないで下さい。

- アンインストール

- サーバー

1. バージョンアップ等再インストールを行うためにアンインストールを行い、それまでに蓄積した各種情報を引き継ぐ場合は、各種情報を格納している"susDatabase.sus"を他のドライブ、またはディレクトリに移動ではなくコピーして下さい。
  - Windows 2000/XPの場合  
All UsersプロファイルのアプリケーションデータがCドライブにある場合  
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data  
¥SuspiciousUSBShutout
  - Windows 7の場合
  - C:¥ProgramData¥SuspiciousUSBShutout  
(移動はsusRetriever.exeが起動されているため動作しない場合があります)
2. プログラムの追加と削除からSuspicious USB Shutout, Serverのアンインストールを行って下さい。
3. susRetriever.exeをタスクスケジューラに登録した場合はタスクスケジューラから削除して下さい。  
削除方法は「susRetrieverの常駐登録.pdf」を参照して下さい。

- コンソールプログラム

プログラムの追加と削除からSuspicious USB Shutout, Consoleのアンインストールを行って下さい。

- クライアント

プログラムの追加と削除からSuspicious USB Shutout, Clientのアンインストールを行って下さい。

- HelloWorld

プログラムの追加と削除からHelloWorldSetupのアンインストールを行って下さい。

- 試用制限

本システムは最初のご利用から30日間を試用期間として全ての機能を通常通り使用出来ますが継続して御利用になられる場合は、ライセンスキーを取得して下さい。ライセンスキーはプログラム起動時に1度入力すれば以降継続利用が可能になります。

尚、ライセンスキーの入力後、アンインストールし、再インストールした場合は再度ライセンスキーの入力が必要になる場合もあります。

試用期間後、未登録の場合、コンソールプログラムは動作いたしません。また、クライアントプログラムも未登録が確認された時点で終了いたします。

- その他

- 記載されている製品名、商品名、社名は一般に各社、版權所有者の商標または登録商標です。

- 本ソフトウェアによってお使いのシステム又はその他にいかなる問題や障害が起きましても弊社、作者は責任を負いません。

- 本ソフトウェアにバグ等の不具合が発見されても、弊社、作者はバージョンアップの責任を負いません。

- 本ソフトウェアの動作の保証はありません。

- 本ソフトウェアの仕様は予告無しに変更されることがございます。

- 本ソフトウェア（ドキュメント、データを含む）の著作権は作者及びSynergic Inc. が保有します。

- 変更履歴

- Ver. 1.0.0

新規。

- Ver. 1.0.0Build2

Readme(本ファイル)に目次を追加した。

モジュールの変更は行っていないので特にVer. 1.0.0から入れ替える必要はありません。

- Ver. 1.0.0Build3

Readme(本ファイル)の記述を修正。

モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.0.0Build2から入れ替える必要はありません。

- Ver. 1.0.0Build4

コンソールプログラム（ConsoleComponentでインストールするプログラム）の初期起動時のデータベースダミーパスを実在するパス（ルートであるC:\¥）に変更。

コンソールプログラムのパラメータのみの変更ですのでサーバー及びクライアントは

Ver. 1.0.0Build3から入れ替える必要はありません。

また、コンソールプログラムもモジュールの変更は行っていないので特にプログラムの入れ替えは必要なく、コンソールプログラムをインストールしたディレクトリ（通常はC:\¥Program Files¥susConsole）内のsusConsole.exe.configをメモ帳等で開き、

```
<add key="ServerPath" value="¥¥127.0.0.1¥susServer" />を  
<add key="ServerPath" value="C:" />に変更するだけで対応できます
```

- Ver. 1.0.0Build5

Readme(本ファイル)の記述にGetInfoforDiskの使用上の注意を追記。

モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.0.0Build4から入れ替える必要はありません。

- Ver. 1.0.1

クライアントでの大量リストデータの受信方法の変更。

クライアント側のみの変更ですのでサーバー及びコンソールは特にVer. 1.0.0Build5から入れ替える必要はありません。

尚、バージョン番号を本バージョンに合わせるため、サーバー、コンソールとも再ビルドしています。

- Ver. 1.0.1Build2

MicrosoftダウンロードセンターからのMicrosoft .NET Frameworkのダウンロード方法が変更になったため、それに合わせてReadme(本ファイル)の記述を変更。

モジュールの変更は行っていないのでVer. 1.0.1から入れ替える必要はありません。

- 連絡先  
有限会社シナジック  
e-mail > [info@synergic-s.com](mailto:info@synergic-s.com)  
URL > <http://www.synergic-s.com>
  - (特記)  
ダウンロードサイト、雑誌の付録等で本ソフトウェアを入手された方はバージョンが古い可能性がありますので弊社ホームページでバージョンをご確認下さい。
-